

2015



J・A・C

(第 32 号)



平成 27 年 9 月発行

日本山岳会千葉支部

発行者 三木雄三

編集者 吉野 聡

事務局 〒283-0166

千葉県山武郡

九十九里町西野672-2

三木雄三方

T E L 0475-76-9467

E-Mail_支部だより参照

関大塚山と高溝溪谷散策

7月4日(土)

山口文嗣

上総湊駅から戸面原ダム行きでバスで、姥石バス停で下車。昔の関所の門柱の礎石だとか、昔この地に住んでいた大きな姥が懐から落とした石臼だとかの謂れのある姥石を見学。その後湊川の川中に浸食によって作られたという奇岩、犬岩に向かう。この岩も浸食が進んでいるらしく、犬の顔がだんだん崩れているようで残念である。犬岩からは対岸に渡って関大塚山の登り口に取り付く予定であったが、連日の雨で増水のため渡れない。仕方なく姥石まで戻り、橋を渡り里道を迂回して行く。昼ちょっと前に三等三角点のある関大塚山に到着。昼食後下山開始。道が崩壊した箇所はシュリングを出して尾根通しに下る。途中から湊川と



は反対側、東の高宕川に向かって下る。最後は道が不明瞭になり、沢を渡って高溝からの林道に上がる。

林道を奥まで進み、最後の民家と水道施設を過ぎると、素掘りのトンネルに出る。下を流れる高宕川もトンネルになっていて、昔の川廻しの跡だとわかる。トンネルを抜けるといよいよ今日のハイライト、高溝の溪谷散策である。連日の梅雨の雨のせいで、結構増水しているが、傾斜がほとんどないので、問題なく歩ける。ただし所々にあるポットホールは要注意である。案の定よそ見をして歩いていた誰かが、穴にドボンしてビショ濡れになるが、浅いので特に問題はない。林道を高溝まで戻り、タクシーにて上総湊に戻った。



関の姥石



犬岩

参加者：山口文嗣 (L)、三木雄三、小澤けい子、塩塚生二、三田博、三田芳江、船木元 (敬称略)

『新緑と清流の西沢溪谷ハイキング』

6月6日(土)

櫻田直克

緑爽やか季節の5月、新緑と清流・溪谷美を味わおうと山梨県の西沢溪谷に行って来ました。当日は前日からの雨で朝から雨模様で心配されたが、参加者の日頃の真面目な態度が通じたのか？塩山駅に到着した時は晴れあがり絶好のハイキング日和となりました。リーダーの山口さん、サブリーダー高橋さんの総勢13名が参加。神山さんが車で参加、私は町田市なので途中の八王子から参加。駅南口からタクシー2台と神山さん車に分乗し溪谷入りへ。私たちの乗ったタクシー運転手が大変陽気で明るく降りるまで現地のガイドで楽しい乗車でした。タクシーを降りると一軒の店でヨモギが店頭にありヨモギ餅を販売していた。戦争で疎開した福島県の安達太良山の麓で食べたのを思い出し懐かしく予約し帰りに持ち帰ることにした。さて天候も回復し晴天のなか元気に出発。私は45年前に奥秩父縦走の途中仲間の体調不良で甲武信岳から途中下山し西沢溪谷へ、その後二度ほど訪れています。久しぶりの山行でした。

塩山駅周辺と街並みの変貌、途中の景色の変化には驚きと観光化にびっくり。時代の流れと進化を感じました。コースは整備され展望台や鎖が充実され気軽に行けるようになりました。登山道も整備され危険箇所もなく歩行可能になっていました。現在の登山は中高年が多いが西沢溪谷は若者が多いのにびっくりしました。吾がグループも若者たち

に負けまいと元気に歩きました。新緑の真ただ中で人出も多く、途中で狭い崖道では待たされこと度々でした。雁坂トンネルの開通で便利になったからでしょう。滝や溪流を見るための展望台も立派に整備され清流と溪谷美や新緑が見られました。天候に恵まれましたが残念だったのは、溪谷のもっとも見所の七ツ釜五段の滝が見られず途中で戻ることでした。目的地の手前で道が崩れたため整備中で、行くことが出来ず途中から引き返しました。7月には開通するようです。途中引き返してでしたがコースの三分の二まで行けたので納得し引き返しました。森林浴と清流で日頃のせわしい生活に追われる日々を忘れる楽しい山行でした。帰路ですが私は八王子から町田へ帰る予定が山口さんから東京駅付近で反省会？(飲み会)に誘惑され東京駅まで。帰りはほろ酔い気分東京駅から新宿駅で小田急線に乗り帰途につきました。元気な中高年の楽しい山行でした。又の機会に是非とも七ツ釜五段の滝を見る計画をお願いします。



西沢溪谷入口にて

参加者：山口文嗣、高橋琢子、金子有美子、香高真奈美、能美勝博、・廣村恵美子、三田博、三田芳江、岩尾富士夫、神山良雄、黒田正雄、櫻田直克（敬称略・順序不同）

徳本峠越えとウェストン祭に参加して 6月6日(土)～6月7日(日)

柳川しげよ

ウォルスター・ウェストンが涙を流して見た徳本峠からの穂高の絶景を、是非この目で見たいと思っていた。今回、山研委員の方々、日本山岳会信濃支部の方々ののおかげで、いよいよその日を迎えることができた。

そんな思いもあり、千葉支部からたった一人の、さびしい参加となってしまったが、6月5日新宿発のさわやか信州号夜行バスに乗り込んだ。

翌朝、夜明け前に安曇支所前バス停に着いた。昨夜からの雨はすっかりあがっていた。そして集合場所である島々公民館へ向かった。

山研隊の出発式を終え、6時過ぎ、山研隊は23人。まずは、二股を目指した。新緑と川のせせらぎを聞きながら歩いた。この上ない贅沢な道だ。私達は、足元をしっかりと踏み歩いた。途中何回か小さな渡渉があり、滑って衣類を濡らさないよう注意をしながら歩いた。丸太の橋や傾きかけた橋も越え、岩魚留小屋に到着した。とても風情のある山小屋だったが、昼食時でもあり大勢の登山者でにぎわっていた。少し上にある「カツラの巨木」

の前で集合写真を撮った。とても大きくて、凛々しい木だったので、すぐに木の名前は覚えた。



そして、九十九折の急坂を登りきると徳本峠に到着した。ガスがかかって、期待した穂高の絶景は



姿を見せてはくれなかった。ああ無念。「また、来いよ」。ということだったのか。ここの小屋で振舞って下さった豚汁の美味しかったこと。いままでに食べた豚汁で一番だったかも。そして、上高地へ向け、出発した。初めて泊まる山研にわくわくと、心ときめかしながら向かった。

ここでは、手作り料理、おいしいお酒などたくさんのもてなしで、迎えてくださいました。時間のたつのも忘れ、夜が更けるまで、話がつきなかった。

翌朝、早朝の上高地を散策。山や花の写真の撮り方を教えてもらった。そして、第69回ウェストン祭に参加した。地元小学生の合唱が、穂高の山に響いていた。その後、信濃支部の午餐会に出席。こちらでも、手厚いもてなしを受けた。

帰りのバスまで、時間があつたので、大正池まで散策した。途中、焼岳が見えた。今度是非、焼岳に登ってみたい。そして、今度は、千葉支部の多くの方々と来てみたい。

中央構造線の巡検に参加して

6月13日(土)～14日(日)

三木雄三

中央構造線とは、関東から九州へかけて西南日本を縦断する大断層のことをいう。7千万年もの遙か昔、すでにアジア大陸の東の端にくっついて出来ていた日本列島の大陸側の半分に、南からやってきた太平洋側の半分がくっついて日本列島が完成した。そのくっついた境目が中央構造線というわけだ。

火山の噴火や地震が頻発しているなか、科学委員会主催の探索山行「大断層地帯を訪ねる」が6月13～14日にあり参加した。中央高速道を諏訪南ICで下り、まずは守屋山の登山口になっている杖突峠へ向かう。梅雨の晴れ間、八ヶ岳連峰や諏訪湖が良く見えた。展望台で講師の大鹿村中央構造線博物館学芸員、河本和朗さんが「太平洋プレートは八ヶ岳の地下150キロの深さに沈み込み、この展望台は中央構造線と糸静線（糸魚川・静岡構造線）が交差している所でもあります。大きな力が加わり断層がズレて、低くなった所が諏訪湖や盆地になった」と教えてくれた＝写真。中央構造線は群馬の下仁田、さらに千葉の野田へと延びているという。

1450万年前に日本海が出来ると日本列島は大陸から離れ、そのとき糸静線の東側が大きく陥没。これがフォッサマグナだが、この展望台から見える地形にダイナミックな大地の動きを感じた。

そんな中央構造線の境目は、岩がぐしゃぐしゃに砕けた破碎帯。その大陸側を「内帯」、太平洋側を「外帯」と呼ぶが、伊那市長谷で見学した溝口露頭に「へーっ、驚いた…」と感激。「内帯」が茶色がかった硬い花崗岩なのに対し、「外帯」は黒っぽく柔らかな泥岩。見ただけでその違いは一目瞭然だった＝写真。「秋葉街道を挟んだ山の斜面の角度が違うのは、硬く崩れにくい花崗岩と柔らかな泥岩が原因か…」と手前勝手に納得し、あのウェストンが赤石岳に登った大鹿村で泊まった(余談、シカ肉の焼肉は美味でした)。

2日目は塩見へ向かう途中の夕立神展望台から雄大な赤石、荒川の展望を楽しんだ。南アルプスの地質は甲斐駒、鳳凰を除きほとんどが赤道付近にあった巨大火山が生みの親。拾ってきた「緑色岩」が宝物になった。



杖突峠の展望台から八ヶ岳方面を見る



大鹿村「列島誕生」の断層露頭を巡検

晴香園の子どもたちと御岳山へ

8月30日（日）

香高真奈美

天気予報通りの小雨の中、一行は新宿駅に集まった。7時44分発ホリデー快速むさしの3号車に乗って一路御嶽駅へ。バスに乗りケーブル下へ。



いよいよここから登山開始だ。舗装された登山道とはいえ急な上り坂。雨水が滝のように流れる道をお供たちは杉の大木につけられた番号800番

から1番を目指して元気に登っていく。

途中、「倒木更新」の現場講義を三木さんから受けて、クジビル（オレンジと黒色の巨大ヒル）がミミズを食べるところを見たりしながら11時10分ビジターセンターに到着。スタッフの方々のご厚意で奥の部屋を貸していただき、おかげで雨にぬれず楽しく皆で昼食をとることが出来た。



「体験コーナー」もあり「背負い梯子」（しょいばしご）で重たい木のかたまりを背負ったり、ムササビを飛ばしたり子供たちは動き回り学習する。さてここから、

御師集落を抜け、右に大きな神代櫓を見ながら武蔵御嶽神社に参拝。子どもたちは集めているピンバッジを仕入れてゴキゲンだ。その後「夏の妖精」



と称されるレンゲショウマ群生地へ向かう。霧深い谷に、淡紫色の花を下向きに開く可憐なその姿に私は大いに感動したが・・・子どもたちはそのすぐ後に茶店で食べた焼き団子やアイスの方が印象に残ったか

も！？である。

標高929メートルの山歩きだったが、帰りはケーブルカー利用だったのでたった6分でふもとに着いた。

「坂がきつくて疲れたけど楽しかった」、「雨でも子供たちはいつも通り！ぬかるみもしっかりとした足どりで登って



くれた」、「山岳会の方々がいざいざと声をかけてくれていた。なので、自分達も一日とても楽しめた」参加した子供たちや引率の先生方の感想だ。



とにかく無事に終わり、マウンテンクラブのみんなは「次も楽しみ！」とのこと。良かった!!。

参加者：晴香園：引率 3名 生徒 6人

千葉支部：川島辰雄、香高真奈美、香高ふみな、香高いづみ、佐藤啓之、塩塚生二、高橋琢子、三木雄三、柳下忠義（敬称略）

こんにちは

新入会員・会友のコーナー

三田博

この5月に会友に加えていただきました三田です。今回の西沢溪谷にも参加させていただき、ありがとうございました。

妻が、同じ職場に日本山岳会の人（高橋琢子さん）がいて、その人と時々山の話をするので聞いて、「日本山岳会って、エベレストに登るような人たちだろ」。ハイキングを最近始めたような私らニワカとはレベルが違うだろうと話しておりました。昨年、富山の西尾根コースへの支部山行に誘われてご一緒させてもらいましたが、メンバーの方たちの前を歩いていると、後ろから歩き方まで観察されているような気がして、とても緊張しました。これは私の自意識過剰で、本当は「見慣れない奴が今日はあるな」くらいにしか思ってなかったのかもしれないけど。

その時に気さくに話しかけてくださったのが現支部長の三木さんでした。山岳会の会友制度のこと、その年に行う台湾の山への遠征のことなど話してくれました。

その日、家に帰ってふと思い返すと、「三木さんて千葉日報の三木さんじゃないのか」と、気が付きました。今から四半世紀以上前ですが、私が東



京タイムズという新聞社にいた時、三木さんは千葉日報の確か県警キャップで、何度かお会いしていたのです。地元紙ならではのディープな情報源を持っていて、何かの事件の折、三木さんに親切に教えてもらったことがあったのです。その後、私の会社は潰れて私もマスコミから足を洗ってしまいましたが、たまにはこんな再会もあるのですね。先日、三つドッケの帰りにそのことを話したら、どうやら三木さんは私のことを憶えていないようでしたが…。

山の思い出といえば、大学の登山サークルに入ったのは良いものの、新歓山行で行った入笠山で、私が地形図を落としてしまい、先輩に「命の次に大事な地図をなくすとは何事」と怒られてそれっきりサークルを辞めてしまったという、話すのも恥ずかしい歴史を持っていたりします。

その後も山とは無縁の人生をずっと送ってきて、山登りをするようになったのは5年ほど前からです。登山ガイド本を読んで「初級」と書かれているような山に単独で、そのうち夫婦で歩くようになりました。こんな貧しい登山歴しか持っていませんが、これから経験をたくさん積んで、一人前の登山者になれるよう頑張りたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



富士山学会 2015 年春季千葉大会開催

6月27日(土)

富士学会と日本山岳会千葉支部などが共催の「富士山と千葉県とのかかわり」をテーマとした講演会が6月27日、千葉県立中央博物館を会場に開かれた。自然環境、芸術、文学などの専門家が「富士山と千葉の里山里海」、「葛飾北斎の富嶽三十六景」、さらに「房総から見た富士山」をそれぞれ色々な方向から興味深く講演した。総合討議では、三木支部長がコメンテーターとして「来年から『山の日』がスタートします。千葉の山に親しんでください」と述べた。

(高橋琢子)



田部井淳子さん講演会「エプロンはずして夢の山」に参加 7月4日(土)

女性初のエベレスト登頂者で知られる登山家、田部井淳子さんの講演会「エプロンはずして夢の山」が7月4日、千葉市内のホテルで開かれた。県ユニセフ協会が主催した。

田部井さんは、NHKの山番組のエピソードや4年前の3.11震災以降の出身地福島県との関わり、とりわけ避難所生活の人たちとのハイキングや高校生たちとの富士山登山を熱く語った。また、40年前に自身が登ったところのエベレストと最近のエ

ベレスト登山の違いをスライドを使って比較・説明し、氷河の後退など地球温暖化やし尿・ごみ問題などについて問題提起した。

75歳になるという田部井さんだが、今なお世界各国の最高峰をめざし、シャンソンを歌うなど趣味も多彩。ソフトでユーモアあふれた語り口に約400人の聴衆も熱心に聞き入っていた。(高橋琢子)

スカイツリーを間近に ビールパーティー

8月22日(土)



8月22日(土)、支部恒例のビールパーティーが行われました。今回は「千葉県外で」との声があり、スカイツリーを間近に見る松屋浅草屋上のビアガーデン「浅草ハレテラス」を会場に猛暑の中、15名の参加者がバーベキューをつつきながら喉を潤しました。普段顔を合わせる機会の少ない会員、会友の参加もあり大いに盛り上がりました。

(谷内剛)

参加者：神山良雄、黒田正雄、坂上光恵、櫻田直克、篠崎仁、諏訪吉春、高橋琢子、高橋正彦、新村貞男、三木雄三、柳下忠義、山崎完治、香高真奈美、能美勝博、谷内剛(敬称略 順不同)

吉永英明

JACの同好会のひとつである山想倶楽部の山行で、総会終了後の6月25日～7月4日の間ギリシャを旅し、ギリシャ本土中部のオリンポス山(2912メートル)と地中海東端のクレタ島イデ山(2456メートル)に登ってきた。

山想倶楽部では、毎年夏、海外の山行を実施している。2012年のアメリカ・カリフォルニアのヨセミテ(ハーフドームの登攀)、2014年のアメリカ・ユタのブライスキャニオンに続く海外山行であった。私にとっては、今般、20年間に亘るJAC運営の手伝いから解放されたため、自分に対する慰労の積りで参加した。

旅行期間中、ギリシャ危機といわれるユーロ圏での経済危機が重なり混乱が心配されたが、我々旅行者は何の不都合もなかった。元々、信用度の低い“ドラクマ”というギリシャ固有の使っていたものが、信用度が格段と高いユーロ圏に加入し、低利での外債による資金調達が可能となったため、ジャンジャン借金をしてしまったもので、これを生産投資に振り向けず、年金の充実とか、オリンピック開催の際の施設費に費消し、一時はデフォルト宣言寸前まで陥ってしまったという訳である。幸い、ドイツをはじめとするユーロ圏主要国の援助で何とか正常化が見え始めてきた。アテネ市内ではチプラス首相提案の国民投票直前であったが、人々には切羽詰った様子は全くなかった。唯、銀行はシャッターを下し、ATMの前に年金生活者が現金を得るべく列をなして待つ姿がみられ、国の財政が破綻するのはこういうことかと思った。

さて、アルプスより東のヨーロッパ中部の第2の高峰オリンポス山の登山は、アテネから高速道路を北上して山麓のまちに一泊、標高2100メートル程のアガピトス・ロッジに2泊してスコピア(2912メートル)に登頂し、隣のみティカス・ピーク(2917メートル)で岩登りのまねごとをした。天候は夕刻に雨模様になる程度で順調、2300



オリンポス山ミティカス・ピーク

メートル付近のマツの森林限界より上はガラ場が広がる大きな斜面を登るというルートで、日本での山登りと大差はない。所々、残雪がみられ、野生の山羊のような動物を遠望することが出来た。

ミティカス・ピークは、5名の希望者を2組に分け、地元の若いお兄ちゃんガイドの先導でハーネスを装着して取付いたものの、1名が経験少なく時間がかかりすぎるため、途中で登攀を中止した。ルート自体は前夜の雨で途中のガリーが濡れていたが、岩は硬く、少々経験があれば十分登れると思われた。スコピア、ミティカスの北面は高度差500メートル以上の大岩壁が連なっており、穂高の滝谷といったスケールではなかった。中腹のロッジは、ヨーロッパ各地からの登山者でにぎわっていた。ビール、ワイン等の飲食、チーズ類のおつまみの値段は安く、酒好きの同行者はずいぶん酔っていた。

オリンポス登山の後は、北部のギリシャ第二の都市テッサロキニに車で移動し、ここから空路クレタ島に飛んだ。移動中気がついたが、アテネとテッサロキニを結ぶ国道1号線ともいべき高速道路の走行車両が少なく、特にトラックの少なさが目立った。やはり、国家経済の停滞が物流まで影響を及ぼしているのであろう。テッサロキニ空港では、雷雨に見舞われて出発が遅れ、おかげでクレタ島イラクリオン空港到着が夜10時すぎ、こ

こからクレタ島山間部まで 2 時間、イデ山登山の基地となるアクソスについたのは夜 12 時を過ぎていた。

翌日は好天に恵まれ、イデ山登山口へ車で行き、約 4 時間ほどの登りで全員無事ゼウスの神の生まれたという山頂を極めることが出来た。中腹は山羊、羊が放牧されたゆったりとした山容で、所々残雪がみられ、北アルプスの太郎平から北ノ俣岳への稜線を歩いているようで、出会った登山者はドイツ西部から来たというドイツ人 3 人のみ、静かな山登りが出来た。

アテネではアクロポリスの丘のパルテノン神殿、



イデ山

第 1 回オリンピック開催時の競技場等を見学し、クレタ島ではクノッソス宮殿跡を見学した。何しろ紀元前 3000 年位から始まる話である。私も最近山想倶楽部の人達と山の辺の道、葛城古道といった奈良の山里を歩いているが、せいぜい 1500 年前位の天皇の勢力圏がその辺の村長さんクラスであったろう時代からしか頭にないためピンとこなかった。

日本からアテネへの直行便がないため、往路はパリ経由、復路はアムステルダム経由を利用した。帰路、アムステルダム空港で“吉永監督”という呼び声がしたので振り向いてみれば、何と山岳部の後輩(彼は 1996 年の J A C K 2 登山隊に参加)がいるではないか。どうしてここにいるかと聞くと生意気にも国際学会の帰りという(彼は独法“環境技術研究所” 研究員)。後で気がついたことだが、私の荷物にそーっとオランダ土産を忍ばせてくれていた。

海外山行のお知らせ (ニュージーランド)

今回はニュージーランドです。南半球に位置する為、ベストシーズンは 12 月～2 月です。日本の 3/4 の国土に 440 万人 (2012 年現在) で、自然豊かな所です。あらゆる生態系を守る為に国土の 1/3 が国立公園や自然保護区に指定されています。そこを巡るトレッキングコースは充実していますが、なかでも人気があるルートバーントラックと Mt オリビエをめざします。ルートバーントラック (ガイド付き) はクィーンズタウンを基点に、ブナの森、峠、山上湖、滝、高山植物、氷河を頂く峰のパノラマを楽しめる 39km のコースです。Mt オリビエ 1933m はマウントクック村から日帰りコースで、Mt クックを望みながらの登山になります。稜線からは氷河を従える Mt セフトン

3151m、アオラキ/Mt トクック 3754m など山々のパノラマが広がります。日を改めてフッカー谷へ分け入ってみると氷河に出合う事が出来ます。クィーンズタウンとクライストチャーチは休養と観光の日を振り当てました。

申 込 等		
時 期：	2016. 2. 1～2. 12	12 日間
概 算 費 用：	55 万円	
(為替、航空券などの変動による変更があります)		
申 込 期 限：	2015 年 10 月 10 日 (土)	
最 少 実 施 人 数：	6 名	
担 当：	岩尾 富士夫	
E - メール	支部だより参照	
携 帯 電 話	090-4395-2717	

登山のABC（連載）

第5話 「歩く」前号からの続きと、雪上技術 高橋正彦

⑯岩稜や岩壁の歩行はまずストックを収納し、両手、両足を自由に動かせるようにします。

手でつかむ所をホールドといい、足を置くところをスタンスといいます。

従って、ホールドが2ヶ所、スタンスが2ヶ所、計4ヶ所あります。移動する場合はこの4ヶ所の内、1ヶ所だけを移動し、残りの3点は確実に安定した状態でなければなりません。この残りの3点を「三点支持」といい、これが危険個所を通過するときの基本です。

⑰渡渉(としょう)これは登山道が普段は足首に満たない小さな沢が豪雨によりあつという間に50cm以上の激流となり、無理して渡渉して残念ながら遭難する人が毎年あとを絶ちません。普通の登山者は膝より上の激流は流されると思わなくてはなりません。

ロープを渡して渡渉する場合がありますが、これはあくまで渡渉者が川の中で転倒しないことが条件で転倒すればロープを巻き上げて水の流れには勝てず助からない。水が引くまで待つか前日の宿泊小屋に引き返さなければなりません。（「歩く」の共通点の完）

雪上技術

「歩く」という初歩的なことからいきなり「雪上技術」というタイトルで猪突な感をいただいた方もあると思いますが、理由は夏山でも雪渓があり雪上技術が必要となります。

そして、雪渓は堅い雪で、これは、そのまま冬山の技術と共通しているからです。

雪上で一番の危険は滑ることです。そして滑落事故が起きる確率も無雪期の数十倍あると考えなければなりません。

それでは滑落防止はどうするのかとなりますが、冒頭からいきなりですが急斜面ではまず自力で止まることは不可能です。それは自力で止まる滑落防止術はあります。しかし、それには体力・運動能力・気力旺盛でなおかつ相当な訓練を受けた上で停止するための体勢を作るのに脳を経由せず体が直に反応しなければ加速度がつき止まりません。時間にしたら100分の1秒以内でしょう。小生の身近でも止まったのは奇跡に近く数名です。それ以外の人はいかなるかという結構助かっています。それは滑った場所から下方の斜面がなだらかなで自然停止したものです。小生の後輩で実際にあったケースですが、冬山で穂高南岳稜線から滝を何回か落下し蒲田側の槍平まで滑落し無傷で助かった者もいます。その高度差は1000mに近いと思います。それとは逆に春山の空木岳山頂でスリップし、20m位は緩斜面でしたがその先が切れており亡くなった仲間もいます。その止まるアイテムはピッケルです。登山者にとってピッケルは武士の刀と同じです。雪上ではピッケルは必須なアイテムです。

（続きは次号で）

歴史と文化のまち市川を半日散歩

5月30日(土)

市川半日散歩Part2「法華経寺と真間川を歩く」に参加した。土曜日の午後、気軽に集まり市川の歴史と文化に触れてみようという趣旨で会友の能美勝博さんが企画したものだ。(Pat1は昨年9月号参照)

会員・会友14名が下総中山駅に集合、能美さんの先導で中山法華経寺に向かう。寒中荒行で有名な法華経寺。荒行の道場の前で香高真奈美さんが「僧侶の友人が荒行をしてきたが、ここで修業したんだ!」と感慨深そう。

法華経寺から真間川河畔を歩き真間の「文学の道」へ。北原白秋、幸田露伴、永井荷風を始めとした市川ゆかりの作家とその作品の一部を記した紹介板が多数設置されている。「市川は昔から文化的な町だと思っていたが、今日改めて認識しました」と三田博さん。

半日散歩だったが、しっかりと市川の歴史と文化に触れた。

反省会は市川駅近くの人気の居酒屋、「気軽に参加できた」

「こんな催しにはまた参加したいね」と話が弾む。

(吉野聰)

参加者:小澤けい子、梶田義弘、梶田天平、金子有美子、香高真奈美、櫻田直克、三田博、三田芳江、津田麗子、能美勝博、山口文嗣、山崎完治、結城純一、吉野聰(敬称略)



だれでも参加できる支部活動を

伝統行事「佐原の大祭」を見学 (四水会)

7月11日(土)

約300年の伝統を持ち、関東三大山車祭りの一つとされる香取市佐原の7月の伝統行事「佐原の大祭」を祭り中日の11日に見学した。会員・会友が山行以外の場でも交流することで、支部の活性化に結び付けようと企画。10人が参加した。

佐原駅に集合した後、まずは高い格式を誇る香取神宮へ向けて歩く。この日は気温がうなぎのぼりに上昇、駅から約4キロ離れた同神宮に到着するころには汗びっしょり。転居先の町田市から駆け付けてくれた櫻田直克さんは「真夏だねえ、丹沢のバカ尾根より疲れるよ…」それでもうっそうとした木立に囲まれた神宮の境内に到着すると誰もが「気持ちが良いね」を口にしていた。

昼食後、再び市街地へ向かい、立派な彫り物と豪華な人形を飾り付けた各町内自慢の山車を見て回った。

佐藤明夫さんは「山登りも良いが、若くないからこういう楽しみ方もあってよい。また計画して…」。

利根川からの風が心地よく吹き渡る中、伝統的建造物の町並みに勢揃いした山車が、佐原囃子の音色と合わせて動き出した。佐原の山車祭りは、国の重要無形文化財に指定されている。(三木雄三)

参加者: 小澤けい子、香高真奈美、櫻田直克、佐藤明夫、佐藤啓之、塩塚正二、鈴木さと子、三木雄三、三田芳江、結城純一(敬称略)



自然保護委員会便り

自然保護委員長 鈴木美代

1. 自然保護全国集会参加報告

7月11日～12日、自然保護全国集会に参加してまいりました。会場は青梅市の、かんぼの宿青梅。多摩川を見下ろす丘の上のしゃれた建物でした。千葉からは、自然保護委員の山崎と鈴木、それに本部担当理事として谷内、が参加しました。

1日目、午前中に各支部からの活動報告。各支部とも力の入った報告で、千葉も、もちっと頑張らねば、と思います。

午後は、日本自然保護協会、辻村千尋氏による講演、「南アルプスを貫くりニア新幹線の自然破壊について」。次に「日本山岳会自然保護活動のこれからを考える」をテーマに報告とパネルディスカッション。盛りだくさんの内容で少し疲れしました。

2日目はフィールドスタディー。千葉組は高尾の森の見学に参加し、親子体験教室での植林地などを見学しました。

2. 今年度自然観察会についてお知らせ

自然保護委員会では、今年度の自然観察会を銚子ジオパークにて予定しております。去る5月25日、吉野会員の同行を得て、下見に行っていました。

銚子ジオパーク推進市民の会の方々のご案内により、銚子電鉄犬吠駅より徒歩で、犬吠埼灯台から地球の丸く見える丘公園を通って屏風ヶ浦、さらに犬岩から外川漁港、外川駅まで、昼食含め4時間半ほどの行程でした。

山とは言えませんが、市民の会の方々のご説明も興味深く、山の少ない千葉においてはこれもありか、と考え、今年度の観察会に決定しました。地球の歴史にご興味ある方は是非ご参加ください。歩くところはほとんど舗装道路なので、どなたでも参加できます。

自然保護委員会では今後の委員会活動を担って下さる人材を募集しています。役員会への所属は任意です。自然保護活動、自然観察や演会準備など、自然保護委員会の活動だけでも結構です。一緒にやってみませんか？

銚子ジオパーク自然観察会実施要領

日時：2015年11月15日（日）
集合：銚子電鉄犬吠駅 10時前後
（直前に時間を確認して決定、）
行動時間：4～5時間
申し込み：鈴木美代
TEL 04-7173-1687
メール支部だより参照
締め切り：10月20日（火）



犬岩：犬吠埼のシンボル

約1億5千万年前ジュラ紀 硬砂岩と泥岩

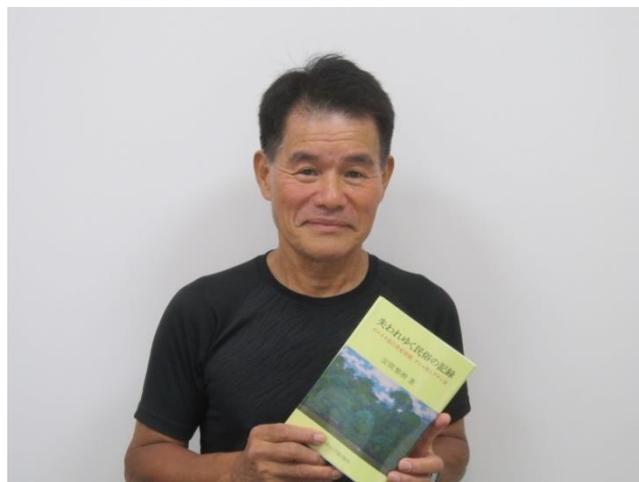
お 知 ら せ

安間繁樹会員 ボルネオ島カリマンタン奥地の記録を発刊

自然保護委員の安間繁樹さんは J I C A（国際協力機構）の海外派遣専門家として、30年に渡りボルネオ島の動物調査および若手研究者の育成に携わってきました。

このたび、ボルネオ島カリマンタンの奥地の先住民の暮らしや習慣について記録した「失われゆく民俗の記録」（副題「ボルネオ島 21世紀初頭 クニャ族とブナン族」）を上梓しました。

安間さんの話＝一步入り込むと連絡の取りようもないボルネオ島奥地。島の人口1800万人のうち先住民は200万人。近代化の進む中での彼らの生活の模様を紀行文の形で書いてみました。



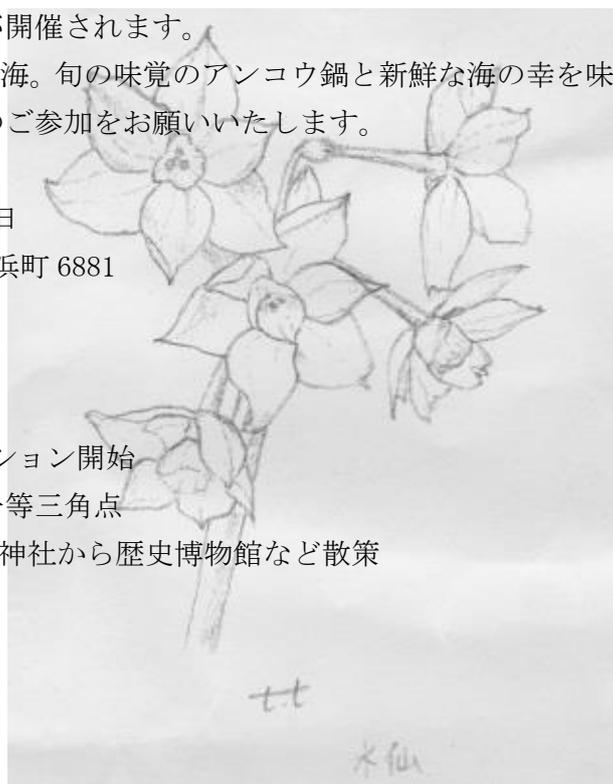
問い合わせ先 自由が丘学園出版部 名古屋市千種区 定価 1500円+税
電話 052-721-0171 <http://www.jiyugaokagakuen.ed.jp/>

四支部懇談会 本年度は茨城県大洗町で

第9回 千葉・栃木・茨城・群馬 四支部合同懇談会が開催されます。本年度は茨城支部の主催です。暖流と寒流が会う大洗の海。旬の味覚のアンコウ鍋と新鮮な海の幸を味わいに出かけてみませんか。会員・会友の皆様のたくさんのご参加をお願いいたします。

（開催概要）

- 1 期 日： 2016年2月6日（土）～7日（日）一泊二日
- 2 場 所： 「大洗ホテル」 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町 6881
電話 029-267-2151
- 3 参加費： 18,000円（一泊二食、飲み代、弁当込）
- 4 日 程： 2月6日（土） 13:30 受付開始
14:30 オリエンテーション開始
2月7日（日） Aコース（登山）高鈴山一等三角点
Bコース（観光）大洗磯前神社から歴史博物館など散策
- 5 申し込み、問い合わせ 高橋琢子
メール 支部だより参照
電話 0436-22-5848
- 6 締 切： 12月20日（日）



山行計画をお寄せください (山行委員会から)

「あの山に登りたい」「もう一度あの山に行ってみたい」「あの山の素晴らしさを、仲間に知らせたい。」でも、改めてメンバーを集めるのはなかなか大変なものです。

せっかく日本山岳会千葉支部に入っているのなら、支部のネットワークを活用して山行を楽しみましょう。

山行委員会では、皆様のお持ちの計画やアイデアをもとに山行計画を立ててまいります。

山行委員に連絡をいただければ、山行委員会で協議して支部山行として「支部だより」を通して参加者を募集いたします。

あわせて、個人山行の情報もできるだけ多く「支部だより」に掲載していきたいと思えます。今後とも、皆様の情報をベースとして年間の事業計画を策定してまいります。ご連絡をお待ちしています。

山口文嗣 山行委員長

支部だより参照

坂上光恵

支部だより参照

小板橋志郎

支部だより参照

山本哲夫

支部だより参照

会員の動向

新入会友 (8月31日現在)

M.Hさん

K.Jさん

千葉支部では会員・会友を募集しています。

お問い合わせは

三木雄三

支部だより参照

090-4393-3515

山口文嗣

支部だより参照

090-4812-8447

後藤三男さん絵画展

千葉支部会員で画家、後藤三男さんの油絵展「安曇野紀行」が9月24～29日、千葉市中央区中央の「きぼーる2階」にある画廊ジュライで開かれる。午前11時～午後6時(最終日は午後4時)まで。

川島会員に関する経過報告

川島由夫さんが昨年9月1日に秋田県の羽後朝日岳に入山したまま行方不明になった件は昨年12月号(29号)で中間報告したところです。今回、その後の経過を報告いたします。

秋田支部は会友でもある川島さんの搜索活動を沢筋、尾根を中心にその後も続けましたが未だ発見にはいたっていません。

日本山岳会の総会(6月20日)で秋田支部長の今野昌雄氏にお会いし、搜索等この間の秋田支部の活動に感謝の気持ちを伝えました。今野支部長は「山菜採りに山へ入るグループにも情報提供を呼び掛けている」等々の対応を話してくれました。

また、7月21日に川島さんの奥さん、道子さんに面会しました。

川島さんは、遺物などが見つからない現段階で法的には行方不明者とされ、このまま発見されない場合は7年間の失踪扱いが続き、その後に死亡宣告となります。

奥さんとしては、発見されるまで、あるいは死亡宣告まで山岳会の籍は置いておくということでした。

道子さんの話=世俗より山を愛した本人は満足していると思えますが、千葉、秋田支部の人に迷惑をかけて申し訳ありません。

(三木雄三)

山 行 の 予 定

(10月以降、支部行事等含)

行き先	日程	申込先	締切	備考
高川山 (中央線沿線)	10.3(土)	湯下正子 支部だより参照	9.26(土)	富士山と大菩薩の 展望 (公益事業晴香園)
谷川天神平と 一ノ倉沢周遊	10.24(土)	山口文嗣 支部だより参照	10.20(火)	紅葉の天神平と一 ノ倉沢の岩壁を採 勝
小檜山	11.8(日)	三木雄三 支部だより参照	11.1(日)	カラマツの紅葉が きれい
自然保護観察会 銚子ジオパーク	11.15(日)	鈴木美代 支部だより参照	10.20(火)	詳細12ページ
郡界尾根 第5回 第6回 第7回	11.21(土)	山口文嗣 支部だより参照	11.15(日)	
	12.19(土)		12.13(日)	
	1.9(土)		1.4(月)	
奥多摩むかし道	11.29(日)	湯下正子 支部だより参照	11.22(日)	奥多摩駅から奥多 摩湖までを歩く (公益事業晴香園)
年次晚餐会	12.5(土)	申込等別途 JAC 会場 京王プラザホテル		JAC創立110周 年記念
忘年山行 石老山	12.12 (土)	山口文嗣 支部だより参照	12.6(日)	相模湖南岸の 奇岩の山道
新年山行 鎌倉衣張山	1.23(土)	山口文嗣 支部だより参照	1.17(日)	名越切通と 富岡八幡宮初詣
海外山行 ニュージーランド	2.1(月)~ 2.12(金)	岩尾富士夫 支部だより参照	10.10(土)	詳細9ページ
四支部懇談会	2.6(土) ~2.7(日)	高橋琢子 支部だより参照	12.20(日)	詳細13ページ
黒斑山	3.5(土) ~3.7(月)	坂上光恵 支部だより参照	2.29(月)	冬山入門(黒斑山) と男の料理教室